

今回は、歴史観光ツアー提案に向けての具体的な実践報告です。

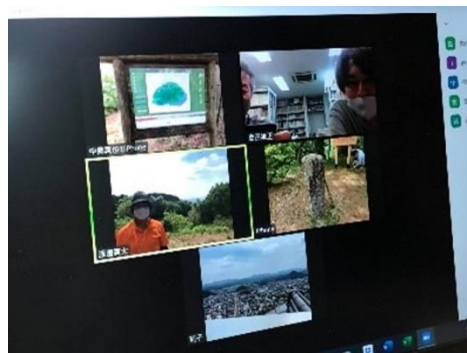
## ◇ ズームアプリを利用したライブ中継の実験を行いました！

日時： 令和3年4月24日（土）13:00～15:30  
場所： 富加町郷土資料館 堂洞城 夕田茶白山古墳 関城 伊木山城  
参加： 地域研究部 富加町 半布里文化遺産活用協議会 関高卒業生

4月13日の検討会では、旅行社側から「歴史ツアーのコアな客層はシニア層であるから、ボートの川下りや、複数の山城登山はあまりに危険である」との指摘を受けました（関ブリッジジャーナル第5号参照）。とはいえ「山城からの眺望を高齢の方々にもぜひ味わっていただきたい」と考えた地域研究部員は、ズームによるバーチャル歴史ツアーを思いつきました。高校生が各地の山城に登り、スマホやタブレットでライブ中継し、ホールで上映するという企画です。これなら、高齢の方々にも楽しんでいただけますし、バス周遊との組み合わせも可能です。これならいけると、旅行社の方からも太鼓判をいただきました。

4月24日に、関係者の方々のご協力により、ズーム中継実験を行ってみました。山城からの眺めや遺構の様子もよくうつっていましたし、風にそよぐ若葉の音や野鳥の鳴き声まで聞こえ、予想以上の成功でした。

（写真：ズームによるライブ中継の様子）



## ◇ ラフティングボートで川下りをしながらのライブ中継実験を行いました！

日時： 令和3年6月20日（日）9:00～12:00  
場所： 美濃加茂市リバーポートパーク 美濃加茂市・犬山市間の川下り  
協力： アースシップ 美濃加茂市 富加町

織田信長の東美濃攻略戦のヤマ場のひとつが、木曾川沿いの猿啄城攻防戦です。江戸期の軍記には、織田勢は犬山側から坂祝側へ「栗栖の渡し」を使って渡ったと伝えられています。今回、地域研究部では、栗栖の渡しと猿啄城のボート上からのライブ中継を、運営会社であるアースシップに提案したところ、代表の水口晶さんに承諾していただきました。

川下り当日は、前日までの不安定な天候も収まり、晴れ模様の中、スマートフォンを使用してのライブ中継を成功させることができました。

通常、リバースポーツのメインターゲットは若者やファミリーであり、シニアの多い歴史ツアーとは客層が異なります。ただ、若者の中にも、ゲームやマンガを通じて戦国時代に関心を持つ層が一定数いることから、川下りを通じて、歴史ツアーの新しい客層を掘り起こすことが可能となるかも知れません。アースシップの水口さんも、川下りのプログラムの中に歴史ガイドを取り込んでいきたいとおっしゃっていました。様々な可能性が広がった一日でした。

（写真：ラフティングボートの様子）



◇ 山城や古戦場のドローン撮影を行いました！

<第1回>

日時： 令和3年6月29日（火）13:00～15:30  
場所： 犬山城 伊木山城 鶉沼城 栗栖の渡し 猿啄城

<第2回>

日時： 令和3年7月10日（土）9:00～12:00  
場所： 加治田城 堂洞城 夕田茶白山古墳 関城  
協力： 富加町 株式会社ROBOZ  
SEALAND-SKY

関高校の探究活動では、昨年度からドローン撮影を取り入れています。昨年度は、専門家から指導を受けた生徒が、ドローンで撮影した関市や美濃市の映像を観光動画制作に活用しました（写真：撮影の様子）。

歴史観光「夕雲の城」ツアーの中で企画したバーチャル歴史ツアーの中に、ドローンで撮影した動画を活用することはできないか。今年度は、織田信長の東美濃攻略戦の舞台となった古戦場や山城をめぐり、ドローンで上空から撮影することにし、2回に分けて撮影を行いました。



ドローンで山城を撮影すると、地上や山頂からとはまったく異なる光景が見え、山城間の位置関係や地理的な環境が一目瞭然です。



左上の写真は、織田軍による東美濃攻略の起点となった犬山城、美濃側に築いた最初の拠点伊木山城、伊木山城から攻め最初に奪った斎藤方の拠点鶉沼城の様子です。

左下の写真は、激しい合戦の場となった堂洞城とその周辺の史跡の様子です。



写真左奥には、織田方に内応した加治田城、中央には堂洞城、右手前には織田信長本陣と目される夕田茶白山古墳が所在します。夕田茶白山古墳は3世紀後半に築かれた東海地方最古級の前方後円墳で、写真では墳形の様子もよくわかります。

こうした動画を取り込めば、ホールで上映するバーチャル歴史

ツアーはより臨場感のあるものとなりますし、写真として博物館施設で活用することも可能です。

今回は、地元自治体や企業のみなさんのご協力を得ながら、ツアー計画をよりよいかたち

に仕上げるための実験を色々行うことができました。